

# 京都教区時報

京都教区広報委員会  
(編集長 村上透磨)

京都教区本部事務局  
京都市中京区  
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

## 第10回 愛の足跡

2022年 司教年頭書簡 「コロナ時代を生きる信仰Ⅱ」  
「キリスト者の終活を始めよう」を受けて

何年前か、展示会に招待されたことがありました。いろいろな作品が強烈な印象とメッセージを伝えていましたが、一つの作品だけが地味な感じがありました。その作品は、海辺に綺麗な服を着て、サングラスをかけた女性が歩いている姿でした。そしてその作品のタイトルは「現代人」でした。そもそも現代の人と海辺が何の関係があるのか？と思いつながら作品を眺めていたら、一つだけ変なことに気付きました。砂浜に足跡が無かったので、綺麗な姿で余裕をもって歩いているけど、自分がどこから来たのか、どこへ向かって歩いているのかを知らず、問わずに生きている現代の人々を現していました。

確かに、今の暮らしは昔に比べたらいろいろな技術が発展し、楽しいことや便利になったことがたくさんあります。しかし、だからといって人々が幸せを感じているとは限りません。コロナが終息して、いろいろなことがまた再開したら幸せでしょうか？ コロナの前の私達は「今、幸せだ」と感じていたのでしょうか？ 「はい」と答え辛いと思います。

どれだけ技術が発展して楽になっても、たとえコロナが終息しても、そこから私達を感じる幸せはとて短いものです。もう少し長い視線で、もっと大きい本当の幸せを探し求めるためにも、私達は自分がどこから来たのか、どこへ向かって

歩んでいるのかを問う必要があります。

「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない」(ヨハネ14・6)。神はイエス・キリストを通して、私達は自分がどこから来て、どこへ向かって歩いているかを示されました。しかし、知っただけで留まってしまうと、私達の足跡はまた消えてしまいます。終わりではなく、新しい命の始まりを準備するためにも、私達はこの世で愛すること、愛されることの練習を重ねなければなりません。

人生の残された時間がどれほどあるのかは分かりません。神がまだお呼びにならず時間を与えてくださったのは、もっと愛して、もっと愛される時間を与えてくださったのだと思います。愛の足跡をしっかりと造りながら、みなさまがイエスと共に歩むことを願います。



滋賀ブロック担当司祭  
チェジュ教区  
ソ・ウォンハ





典礼委員会担当司祭 菅原友明

### 今月のポイント①

奉献文の結びの栄唱、

会衆は「アーメン」のみ

「すべての誉れと栄光は世々に至るまで」は

司式者のみ

奉献文の結びに、司祭はパンとぶどう酒を高く掲げて、「キリストによってキリストとともにキリストのうちに、聖霊の交わりの中で、全能の神、父であるあなたに」と唱えますが、その続きの「すべての誉れと栄光は世々に至るまで、アーメン」の部分は、会衆も加わって全

員で唱える傾向が見受けられます。ラテン語規範版でも日本語現行版でも会衆が

唱えるのは「アーメン」のみと規定されているのですが、日本の『典礼聖歌』で、この栄唱を歌唱する場合、会衆が「すべての誉れと栄光は…」から加わるように

指示されていたために、歌唱しない場合にも、この部分から一緒に唱える習慣が生じてきたようです。今回の改訂では、

このような混乱や不統一を解消するために、栄唱を歌唱する場合にも歌唱しない

場合にも、会衆は「アーメン」のみを唱えることとなりました。

ミサの中で何度も「アーメン」を口にする私達ですが、とりわけここでの「アーメン」は、奉献文によって語られ成し遂げられたキリストの贖いのみ業全体への賛美と感謝と確認の「アーメン」なのです(※1)。神学生時代、典礼学の授業で、この「アーメン」が「大アーメン」とも呼ばれているのだと聞いたことを覚えています。会衆の唱える言葉が減って残念だという思いもあるかもしれませんが、むしろ、この「アーメン」に

すべての思いを込めることもできるでしょう。

### 今月のポイント②

世の罪を取り除く神の小羊、

いつくしみをわたしたちに

「平和の賛歌」も口語に変更

これまで「神の小羊、世の罪を除きたもう主よ、われらをあわれみたまえ」と唱えられてきた「平和の賛歌」も、他の賛歌と同様に口語に変更され、「世の罪を取り除く神の小羊、いつくしみをわたしたちに」となります。結びも「われらに平安を与えたまえ」から「平和をわたしたちに」となります。また、表題にはラテン語が加わり「平和の賛歌(アニヌス・デイ)」と表記されるようになります(※2)。なお、他の賛歌と同様に、歌唱する場合には、これまで通り「神の小羊…」と歌うことができます。

※1 『ローマ・ミサ典礼書の総則(暫定版)』79参照。

※2 「平和の賛歌」はラテン語の歌い出しの語を取って、広く「アニヌス・デイ」(神の小羊)とも呼ばれています。

## 乾隆神父のイタリア留学記(11)

京都教区司祭 大塚乾隆

今回は、2年生の後期(2022年2月から5月)に習ったことで感じたことを書いてみようと思います。

グレゴリアン大学の授業は授業の内容によって授業数が異なり、2年生の後期は多くの時間を、教会法典第VI集(教会における刑罰的制裁)と第VII集(訴訟)に費やしました(なお、第VI集は教皇フランシスコによって2021年に大幅に改正され、改訂部分はカトリック中央協議会からも冊子が出ています)。

限られた紙面で書ききけることは難しいですが、私の印象は「許すことが根本にある」「完璧を追い求めてはいけない」ということです。授業を受けながら、日本の文化と照らし合わせてみました。誤解を恐れずに結論を言うなら、そして私の印象が大きく間違っていないければ、日本での視点に基づきキリスト教が広がるのがどれだけ難しいだろうということとです。

第VI集の改訂は、共同体・信徒の善益を守ること、つまり正義の回復・違反者の矯正・つまずきの解消が大事な視点です。そのために、改訂前と比べて、重い

刑罰が課せられるようになりました。しかし条文をよく読むと、その適用は最後の最後なのです。加害者の反省の余地をどれだけ考慮しているでしょうか。未成年者への性虐待以外にも、私の想像を越える事例が扱われています。もちろん、その人たちは罰せられます。でもそれは、加害者を懲らしめるのが目的ではなくて、あくまでも「共同体・信徒の善益を守る」ためなのです。授業を受けながら、「少し甘いのではないか、一般社会の感覚とは異なるのではないか」と思いました。しかし「神さまの人間に対する接し方はどうだろうか」と問われたときに、「許すことが根本にある」という冒頭の印象に戻ったわけです。正直、頭では理解しようと思いがながらも、現実には難しいことを感じました。

第VII集で扱われる訴訟法も、日本で法律の勉強をしていない私にとっては苦勞の連続でした。扱われている内容は、「どうやって裁判を進めていくか」ということとでしょうか。そこで感じたのは、「人間は(司法に携わる人間であってももちろん)間違える存在である」ということです。この考えを前提に進められているので、「もし…だったら」と仮定する必要がある、その分、教会法の条文が増えている気がしました。もちろん、日本社会で求められるように、ミスなく進めることが大切なのかもしれません。さらに

教会の歴史の中でそれに委縮した時代もあったようです。ですから、「完璧なのは神さまだけだから、人間は確からしきで良いんだよ」と言われているのです。ちょうど、コロナ対策の時期とも重なったので、余計に考えたのかもしれない。ゼロコロナを目指すことはそれで良いのかもしれませんが、人間には無理なのです。それで窮屈になっている日本社会を遠くから見たとき、「まあ、ある程度はしゃないやん」と言いながら、感染者がある程度いる中でも社会活動を再開したイタリアにいたので、この考え方が私にはしっくりきました。

小難しい授業を通して、キリスト教が考える人間のあり方について感じたことを書いてみました。皆さんは、どう考えますか。



朝日を浴びた聖ペトロ大聖堂

## \*\*\*\*\* 青少年委員会より \*\*\*\*\*

## 名張教会で「高校生会夏の集い」

7月30日開催

7月30日に名張教会で「高校生会夏の集い」が開催されました。午後2時に集合した参加者は、ホセ神父から聖ヘレナを記念した聖堂についての説明を受け、当日の福音箇所（マタイ14章「洗礼者ヨハネの死」）の朗読を聞き、ヨハネの正義と勇気について、また、サロメと家族との関係のことなどを黙想しました。その後、約1時間かけて、名張の市街



を巡礼しました。この日はとても暑くて日差しが強い日でしたが、参加者はそれぞれの思いを神様におささげしながら、古来の巡礼道として知られる初瀬街道や「ひやわい」と呼ばれる名張特有の狭い路地をひたむきに歩いていました。教会に戻るとアントニオ神父司式のミサがささげられ、その中でひとりずつ感想を分かち合いました。ミサ後には教会の方々が準備してくださったお菓子と飲み物をいただき、解散となりました。



今回は高校生10名とご家族等約10名が参加されました。全面的にご協力をいただきました名張小教区の皆様へ感謝申し上げます。年末にも企画を予定しておりますので、皆様のご参加をお待ちしています。

高校生会担当司祭 菅原友明

## 中高生広島平和学習 オンライン企画「バトンリレー」

8月13日開催

「広島平和学習オンライン企画」をZOOMにて実施しました。これは、コロナ禍以前に行っていた「京都教区中学生 広島平和巡礼」の代替企画として実施したものです。

戦後77年となり、これから実際に被爆された方のお話も伺うことができなくなっていきます。私達はこれからどのように戦時下に生きた人々の思いや記憶を伝え、次の世代に繋げていけばいいのかを皆で考えたいという思いから、「バトンリレー」をテーマとしました。

被爆者証言の映像を皆で視聴してから、今自分達にできることを考えました。「ポスターを配る」「動画を作成する」「まずは戦争のことを勉強する」など、多くの意見が出ただけではなく、皆で力を合わせたら実行に移すことができることもたくさんあると気づき、オンラインではありながら、皆が熱い思いを持って終わることができました。



リーダーとしては、「来年こそは実際に広島にたくさんの中学生と一緒に立ちたい！」という思いを改めて強くしました。とても良い時間を過ごすことができましたと思います。

中学生広島巡礼リーダー 河原町教会 橋本仁子

教会学校研修会

「わたしたちのはつせいたい」の

解説と指導方法

8月27日(土) 開催

報告 信仰教育委員会 奥埜さと子

今年度の教会学校研修会は、2年ぶりに対面で行われました。

場所は当初予定していた河原町のヴィリオンホールではなく、大聖堂をお借りし、間隔をとって着席、時間も短縮し、質問コーナーではマイクを回さないなど、感染対策をしながらの開催となりました。当日数名の欠席があったものの、教区内9ブロックすべてのブロックから参加があり、16小教区から28名の教会学校リーダーが集まりました。

研修会のテーマは『わたしたちのはつせいたい』の解説と指導方法』で、オ



リエンス宗教研究所発行『わたしたちのはつせいたい』の著者で、福岡教区司祭の大塚了平師が、講師として福岡から来てくださいました。

例年どおり、大塚司教様が冒頭にあいさつくださり、教会学校リーダーの奉仕への感謝の言葉をいただきました。また、子どもたちに信仰を伝えるうえで、子どもたちの判断力、思考力、批判的なセンスを大切にするなど、信仰の押し付けにならないようになど、お話しくださいました。

講師の大塚師は、前半と後半に分けてお話しされ、前半ではテキストの「指導理念」について、説明されました。「知識偏重から脱却して、信仰の感覚(センス)を養う」という意図で、テキストを作った。それは、現在の幼児教育の現場が、『非認知能力』を育てることを重要視しているように、子どもの信仰教育では『公教要理』からの脱却、つまり、信

仰の感覚や心の内面、思考力を育てることを重要視するという考えに基づくものである」と話されました。

後半では、テキストの内容の解説、アイデアについて話され、イエスがどういう教師であったかを思い起こしながら、教師としてのありかたについて考えました。また、「神秘だから信じなさい」で終わってしまいがちな『三位一体』についてどう教えるか、『聖体の秘跡』の意味と価値について伝えることの重要性についても学びました。

大塚師のお話の中で強調された、「イエスが一方的に答えを押し付ける教師ではなかったこと、自分中心ではなく人々を見ておられたこと、人々の心の中に芽吹いている信仰の種を見出され、それを守り育てられたこと」をいつも思い起こしながら、子どもたちと関わっていくことを具体的に学んだ研修会でした。



講師の大塚了平神父様のご著書  
オリエンス宗教研究所  
2020年初版発行

# 京都司教区のホームページが新しくなり、進化し続けています！



トップページの写真は現在4枚。この写真は太田司教の司教叙階25周年ミサに集まった司祭と修道者の記念写真です。



カトリック中央協議会、カリタスジャパン、パチカニューズの最新のニュースも、ここから見るができます！

## 新着情報

2022.10.01	2022年10月1日付け人事異動のお知らせ <b>NEW!</b>
2022.10.01	いのち・平和・環境の日の集い on ZOOM (11/12)のご案内 <b>NEW!</b>
2022.09.16	衣位聖苑物故者 及び 死者記念ミサ 中止について
2022.09.01	2021年司教年頭書簡「コロナ時代を生きる信仰」動画
2022.08.03	第16回シノドスのためのキリスト教諸派からの提言と合同礼拝
2022.07.11	司教叙階25周年祝い/パウロ大塚喜直司教

[教区からのお知らせを見る](#)

**カトリック中央協議会**

- 10月10日の「世界死刑廃止デー」にあたり死刑廃止を求めます (日本カトリック正義と平和協議会)
- アジア司教協議会連盟(FABC)創立50周年総会 FABC50周年総会開催にあたってのお祈りのお願い
- 在留特別許可候補者名キャンペーン
- 愛のあかし・元朝の大舟教400年 (2022.09.10~2023.12.04)
- 「パチカンと日本100年プロジェクト」

**カリタスジャパン**

- TOGETHER WE CAN DO IT! 2022年気づきの年
- 「ウクライナ危機人道支援」緊急募金

**パチカニュース**

- 第2パチカン公会議開始から60年
- 10月の教会の祈りの意向:「すべての人に開かれた教会」のために

**J-MISSIO(教皇庁宣教事業)**

- 宣教活動画を募集します!

時々変わる「おりおりのことば」写真が変わったら、言葉も変わっています。ぜひ、チェックしてくださいね。



色とりどりの12の箱の中には、情報がいっぱい入っています。まるで宝箱のようです。今日はどこを開けますか。

<https://www.kyoto-catholic.net/> 2022.10.4のホームページ画面

どうしたら見やすいHPになるのか、皆さまがどんな情報を求めてHPを見てくださるのか… 試行錯誤しながらHPを更新しています。どうぞ一度のぞいてみてください。そしてご意見がありましたら、ぜひ教区本部事務局までお寄せください。皆さまに愛されるHPづくりに励みます。

トノシロのしげやき

「早く救いて召し上げ給え」

11月、死者の月。昔、「煉獄の靈魂(プルガトリオ・浄めの場)の月」と呼ばれていたように思う。

思えば、私たちの年代は、いつも死と直面していた。戦争中は戦争と、戦後は飢えと貧しさとの戦いの連続だった。だから自分の死について、考えざるを得なかった。他人の死も、無関係ではいらなかったのだらう。子どもには死の意味はわからない。でも「死」を感じていた。そして、みんなひもじい思いをしていた。

夕の祈りの時に、必ず「死者の祈り」が加わり、また食後の祈りにも「死せる靈魂のために神の憐れみ」を願った。

12歳の時、小神学校に入学し、しばしば死についての黙想をする機会が与えられた。11月には、夕の祈りの最後に煉獄の靈魂のための歌を歌った。その歌は今の聖歌集にはない。

まじめな話ばかりだと心が暗くなるので、おもしろい思い出を一つ。福岡の小神学校は、今村という村の信者さんたちが、自分たちの食物を犠牲にして、それを夜闇に乗じてバタバタ(三輪自動車)で運んでくださった。それで飢えをしのいでいた。私たちは恵まれていた。ただし、見張りの警察に捕まらないようにと祈った。そんな状態だったので、先の歌の一節の「早く救いて召し上げ給え」という句になると、体はくたくたで、祈りもしどろもどろの私たちが、かっと目を開いてくすくすと笑い出したものがある。「召し上げ給え」を「飯あげたまえ」と聞いたのである。

しかし、死についての不安は、神の憐れみと慈しみへの発見へとつながるのである。

主の慈しみをとこしえに歌い、主のまことを世々に告げよう。

広報委員会担当司祭 村上透磨



教区からのお知らせ

訃報

ジョー・ルーニー神父様  
(マリスト会)

2022年9月19日、  
アイルランド・  
ダブリンにて  
帰天。89歳。  
1968年より1992年  
に帰国されるま  
で、奈良県にて司  
牧活動に献身してくださいました。  
神父様の永遠の安息のため、お祈り  
ください。



司祭の人事異動のお知らせ

2022年10月1日付

京都南部地区協力司祭

エミリオ・フオルトウール師

(グアダルペ宣教会)



### 大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



## 11月のお知らせ

### 教 区

#### いのち・平和・環境委員会

「いのち・平和・環境の日」の集い on ZOOM  
「上野教会における外国につながるの  
子どもたちの学習支援」

12日㊦ 10:00～11:00

講 話：オチャンテ・ロサさん  
(桃山学院教育大学准教授・上野教会信徒)  
申 込：下記のQRコード(Googleフォー  
ム)からお申込ください。京都  
教区ホームページからもアクセ  
スできます。

※後日、ZOOM招待メールをお送りし  
ます。お申込後に【自動返信メール】が  
届かない場合は必ずお問い合わせくだ  
さい。

申込締切：9日㊦ \*定員100名  
参加費無料



#### 聖書委員会

##### オンライン聖書講座

「人はなぜ病み、苦しむのか—聖書からの問い」  
10日㊦配信「イエスはすべての弱さを背負い」  
講師：阿部 仲麻呂神父  
(サレジオ修道会)

24日㊦配信「あなたは神の子メシアです」  
講師：鈴木 信一神父  
(聖パウロ修道会)

YouTube 申込者限定配信  
講座は3か月間視聴可能(有料)  
問合せ：075-366-6609 聖書委員会

#### 教区本部事務局

衣笠墓苑物故者及び 死者祈念ミサ(衣笠墓苑  
合同追悼ミサ)中止

6日㊦衣笠教会で開催予定の表記のミサ  
は中止いたします。当日、大塚司教によっ  
て、京都教区すべての物故者のためにミ  
サが捧げられますので、心を合わせてお  
祈りください。

#### 広報委員会

教区時報1月号の原稿締切日は11月21日㊦です。

### 諸 団 体

#### 京都カトリック混声合唱団

13日㊦ 14:00 祈りと歌の集い

河原町教会聖堂

現在本来の活動は休止中。再開時、団員に  
は連絡します。

問合せ：075-951-4283 則武 隆

#### コーロ・チェルステ(女声コーラス)

練 習：24日㊦ 10:00

河原町教会 2階楽廊

問合せ：075-701-3303 岡田久美

#### 聴覚障がい者の会・京都グループ

手話表現学習会(聖書と典礼)

日 時：24日㊦ 13:00～15:00

場 所：希望の家地域福祉センター

京都市南区東九条東岩本町31-10

※新型コロナの状況により中止となる場  
合もあります。

問合せ：Tel・Fax：075-723-1135 傳 裕子

#### 心のともしび ラジオ番組案内

(全国34局で放送)

K B S 京 都 ㊦～㊤ 朝 5:55

㊦ 朝 5:15

ラ ジ オ 関 西 ㊦～㊤ 朝 5:00

㊦ 朝 6:05

11月のテーマ「委ねる」  
ホームページもご覧ください。  
<https://www.tomoshiibi.or.jp>



点訳版「京都教区時報」〈無料〉ご希望の方は『カ  
障連大阪フレンドリー点字部』嶽崎 (たけざき)  
裕子さんまでお申込みください。  
Tel・Fax/079-431-8601

